会　議　録

1　開催した会議の名称　　令和6年度佐賀県立九州陶磁文化館協議会

2　開催日時　　令和6年8月1日（木）13時30分から15時30分まで

3　開催場所　　佐賀県立九州陶磁文化館　会議室

4　出席者　　委　員：　今泉委員長、村上副委員長、青木委員、猪村委員、蒲地委員、
富田委員、松尾（佳）委員、谷上委員、古川（朋）委員、松尾（あ）委員
事務局：鈴田館長、江副統括副館長、徳永シニア・アドバイザリー・フェロー、
福田企画総務課長、藤原学芸課長、大久保係長、芳野主査、
宮木主査、巖主事、三ケ島主事
オブザーバー：　文化課　南雲課長

5　議題　（1）　九州陶磁文化館の運営について
①　令和5年度事業実績について
②　令和6年度事業計画について
（2）その他

6　会議録

会議の冒頭に鈴田館長から挨拶、委員・職員・オブザーバー・委員長の紹介の後、議事に入った。

（事務局より配布資料に基づき説明）

（委員長）

ありがとうございました。ただ今の事務局の説明に対して、皆さんからご意見、ご質問をお受けしたいと思います。挙手のうえ発言をお願いいたします。

（委員）

外国人観光客がたくさんお見えになっているという興味深いお話がありましたが、外国人観光客の皆さんは何を参考にしてここまで来られているのかというのは分かりますか。

（事務局）

しっかりしたデータは持っていませんが、大型客船等でお見えになる団体がいらっしゃって、その方たちは、まずは九州州陶磁文化館を目指して来られるというところはあります。また、韓国や中国の方からは、九州陶磁文化館の存在を知られていて、ここを目指して来られる方もたくさんいらっ

しゃいます。

（委員）

有田の街中でご夫婦と思われる欧米の方を見かけますが、そのような方々もレンタカーなど車で来られているのではなく、大型客船の観光客と考えてよいのでしょうか。

（事務局）

外国の小グループがいらっしゃった時に「どちらからですか」と聞いたら欧米からでした。唐津にクルーズ船が定期的に来ていますが、そのお客さんでした。唐津から九州陶磁文化館までどうやって来られたかまでは確認していません。

（委員）

裕福な方たちはそうかもしれませんが、私たち一般庶民が外国に行く時はよく「地球の歩き方」みたいな旅行本などを読んでから、博物館に行こうとなりますが、外国のそういうガイドブックとか旅行本に九州陶磁文化館の情報を載せたりしていますか。

（事務局）

フェイスブックに投稿するときに英語でもなるべく投稿するようにしていまして、たまに海外の方からコメントが入ってきたりしています。インスタグラムで外国の方が九州陶磁文化館の様子をアップされたこともあります。

また、九州観光機構に”Visit Kyusyu”という海外版の九州を紹介するサイトがあって、そちらにも九州陶磁文化館を英語で紹介していただいています。

補足ですが、日本在住のイギリス人の方が、日本の博物館や美術館を紹介する本を英語版で書いていらっしゃいますが、それにも取り上げていただいていて、結構、海外の方向けの博物館を紹介するコンテンツに九州陶磁文化館が取り上げられています。おそらく興味のある方たちはそういうものを見ていらっしゃるのではないかと思われます。

また、案内担当が時々、海外の方にどこで知りましたかとお聞きすると、フランスの方が多くて、どこで知られたかよくわかりませんでしたが、フランスの団体のお客様は、美術館巡りや建築物巡りといったアートを巡る旅に申し込まれていて、その中で九州陶磁文化館は、立寄り先として紹介されているようです。

中国は中国、韓国は韓国、欧米は欧米でそれぞれの言語にそれぞれの言語のツアー情報みたいなのがあるかと思います。例えば、欧米系でいうとトリップアドバイザーで、有田の観光地として33 カ所あるうち九州陶磁文化館が1番人気であるとか、そういったことがいくつか繋がっているの

だろうと思います。そもそも有田に焼き物を見るために来るという方が一定数いらっしゃって、日本に来られる韓国の観光客はそもそも大変多いと思いますが、福岡でもなく、佐賀市でもなく有田に来られるというのは、やはり陶祖である金ヶ江三兵衛は、韓国ではヒーローということで受けとめられているということはよく伺います。

（委員）

全く違う視点なのですが、海外の博物館に行った経験はあまりないのですが、無料のところは多分あまりないと思いますが、これだけのものを展示して、外国の方に対してもずっと無料というのは、あまりにも太っ腹じゃないかなと思うところはあります。これだけのものを見せて無料というのは、外国の方も不思議だなと思われているのではないでしょうか。

（事務局）

来館者によっては、これだけのものを無料というのはけしからんという日本人の方もいらっしゃいます。財政が厳しいということは世間でよく言われているのに、なぜお金を取れないのかという方もいらっしゃいました。ただ、地元の有田の人は、無料で気軽に柴田夫妻コレクションなどを勉強のために何回でも来られるというのは、ありがたいという声もありますし、一長一短があると思います。

以前は、常設展も200円程度の観覧料をいただいて有料でした。それが 30 年以上前に図書館は無料であるし、博物館法にも公立博物館は、入館料等を徴収してはならないと規定されており、やはり県民のために博物館も無料であるべきだという議論がありました。しかし、特別な展覧会などで大きな事業費が必要なときは有料でも構わないということになりました。いろんな分野から集まっていただいて、将来の九州陶磁文化館のあり方を検討する協議会の中でも無料・有料の問題が議題になり、委員の方々からは有料にすべきという意見をいただきました。最終的に、県内の博物館の状況なども勘案しつつ、様々な議論した結果、やはり当面は無料でいこうという方針になりました。

（委員）

外国人料金という考えはありませんか。

（事務局）

九州陶磁文化館内部でも意見は分かれましたし、県内の博物館でも名護屋城博物館はもう有料にすべきだ、博物館と佐賀城本丸歴史館は無料という意見で、それを所管課で取りまとめて結論的には無料という結論でした。

（県）

最近も少し論点になっているところであって予算の確保が難しいのではないかということが、分かってきていて、どこにどういうふうに投資するのかということがいろんな分野で論点になっています。その中に博物館などの常設展も有料化するかどうかという話も入ってきていますので、検討していきたいと思っています。先ほど方法論みたいなことがありましたが、地元の方にはたくさん見ていただくという話であれば、例えば、県外の人と外国人の方からは観覧料を取るというやり方もあると思います。私が面白いと思ったところでは、平日の夜は地元の人のためのオープンデーになっているという海外の美術館があったと思いますが、例えばそういうことを実施してみたり、いろんな工夫があると思いますので検討していくことになるのだろうなと思っています。

（事務局）

包括外部監査で公認会計士が運営について予算面から分析していただいたことがあったのですが、例えば、来館者が５万人で全員が県民だったと仮定して九州陶磁文化館の運営費を来館者数で単純に割ったら一人当たり 5000 円かかっています。一人 5000 円の無料のお客様をお迎えしているわけで、それが 50 万人になったら、一人 500 円になるということです。単純にコストだけで分析をされて、血税で運営させていただいているということを改めて考えてしまいました。評価は来館者数だけではないといいながら、一方でそういうコストのこともある程度考えて、受付で観覧料をいただくには、人を雇わないといけないので人件費も増える、また、自動販売機を導入しても、今の入館者数ぐらいだったら、そのコストでかえって赤字になる。コストだけを考えると無料の方がまだ経費はかからなくてよいという説明をしました。なかなか難しい問題です。

（委員長）

無料と有料の問題は多分ずっと以前からあると思いますし、今後も無料だからということではなくて、常に議論していただきたいと思っております。よろしくお願いします。他に何か。

（事務局）

この協議会でいただいた意見は私達にとっては非常に貴重です。普及や観光などのイベントに力を入れるという流れがある中で、それに追われて寄贈品の受け入れもなかなかできていないときに、協議会で委員から九州陶磁文化館の研究活動はどうなっているのか、以前は研究紀要というものがあったではないかと言われて、復活しました。あれからさらに学芸員は、年に何本か論文を書かないといけないと言って必死になって勉強しています。

（委員長）

研究紀要について、委員なにかありますか。

（委員）

復活して大変よかったと思っています。展覧会をやってそれを研究紀要に載せているのは、非常にいいやり方だと思って感心しています。若い学芸員が書いている論文は、十分に実績のある学芸員が書くような俺を信じろというものではなくて、本当に地に足がついている地道なことを書いているので、非常に感心しています。これからも続けてほしいと思います。

（事務局）

正直言って、自分の個人テーマについて論文を書くための時間はなかなかとれません。展覧会のために準備して、それをやっているうちにいろんな面白いことが出てきて、それをちゃんとした形でまとめていくと論文になる。業務をしながら、わずかなヒントを身にしていくというのが、私は長く勤めていて、それが結果的には一番効率がいいと思っています。

今でも自分が持っている焼き物を見てほしいという相談が頻繁にあり、世界中からきています。それを忙しい博物館は全部無視していますが、九州陶磁文化館では、無視しないで、時間をかけて裏をとってちゃんと調べています。その問い合わせを調べるのがきっかけになって、短いテーマの論文を書けるネタが出てきます。それが走りながら専門性を深める唯一の方法だと思います。

（委員）

確かに研究する時間はないと思いますが、別に時間があるからやっているわけではなくて、やっているうちにいろんなテーマが出てきます。なにか書けそうなものができたら、どんどんいろんなところに書いてほしいと思います。それで、九州陶磁文化館の学芸員の名前がいろんなところに載っていると、やはり九州陶磁文化館の宣伝になります。ちゃんとしたものを書いていると、あそこはちゃんとしたところだなと思われますので、いろんなところに名前を売っていってほしいと思います。是非、学芸員の人たちがいろんなところに顔や名前を出して九州陶磁文化館の権威を高めていってほしいと思います。

（委員長）

はい、ぜひこれからも続けて頑張ってください。他に。

（委員）

地震とか佐賀県は少ないと言われていますが、災害時の対応、それから有事の際の対応はどのようにされているのかお尋ねします。

（事務局）

災害で一番身近な火事の時の訓練を毎年やっています。人命救助が第一ですが、展示室内の重要文化財などを取り出す手順とかもすべて決めています。毎年必ず半日かけて火災だけではなくて、AED の取扱いとか、文化財を守るという意味では、展示室の重要な資料を持ち出す係とか火事の対応の訓練をやっています。

あと、地震対策ですが、地震対策は震度5程度の地震でも、収蔵庫の中で棚から落ちないような手配とか、展示物が倒れないような手配をしています。建物全体が免震構造になっていれば一番いいのですが、それができないので、展示ケースごとに免震装置を配置しています。

一つは、この施設が耐震の状況確認をしたうえで施設管理をしています。地震も有田を直撃というのはなかなかありませんが、直近では熊本地震とか福岡西方沖地震の場合でも、ここは比較的地盤と建物の躯体が割合しっかりしているということで、耐震化は現時点では不要という判断が出されています。

一方でこういった公共施設の役割として、緊急時の避難施設の候補として検討の中に入っています。有田町を含めて公共施設としてのあり方の中で、そういった検討もなされています。

それから、有事の際の対応は、なかなか現実的に想定はできないところですが、収蔵品数が多いということもあり、外に持ち出す方が恐らくリスクが大きいと思っています。火災の場合も同様で、一般的に博物館施設は、ガスで酸素をなくして火を止めます。もちろんその中には人は入っていけません。基本的には火災があっても収蔵庫だけはなんとかなるという設計になっていますので、収蔵品を持ち出すリスクよりもお客様も職員も含めて避難させるということを最優先で訓練しています。

（委員）

ありがとうございます。

（委員長）

他に。どうぞ。

（委員）

去年も意見に出ていますけれども、展示の解説があるとより分かりやすいので、多言語化も含めて、今現在どうなっているかを教えていただけますか。

（事務局）

展示の解説は専任者を 2 人配置していますので、事前申込があれば殆ど対応できていますが、

飛び込みの展示解説依頼は業務の都合で対応できない場合もあります。概要説明で終わる場合もありますし、展示室をまわり丁寧に解説をする場合もあります。年間の案内数が年々増えてきています。 やはり作品を見るだけではなく、耳で聞いたほうがよく分かるというのは、展示解説をしてみてわかります。

（委員）

今は皆さんスマホを持っていますので、スマホで展示解説を受けられる美術館がありますが、そういうものには取り組まれていますか。

（事務局）

以前、貸出式のデジタルデバイスを整備したことがありますが、ちょうどコロナでそういう電子機器を共用すると問題があるということで中断した経緯もあります。

もうひとつは、頻繁に展示替えをするので、せっかく翻訳をしてもすぐまた新たに翻訳が必要になるということになりますし、その経費もなかなか予算化できないということもあります。 しかし、翻訳の無料ソフトなどがどんどん進んできましたので、これから変わってくると思います。

（委員長）

はい、ありがとうございます。はい、どうぞ。

（委員）

先日、シンガポールの超富裕層の方を九州陶磁文化館にお連れして学芸員に案内してもらいました。その後、その方々にお会いしたのですが、とても感動されていて、なぜあれが無料なのかと言われていました。入館料については、いろいろ議論が必要ですが、九州陶磁文化館として、そのスペシャリティな解説に関しては、解説料のようなものをいただくというのもありかなと思います。

有田町も今、富裕層の方が非常に多いので、その方々向けの旅行パッケージを作ろうということで、観光庁の事業に申し込まれている事業所もいらっしゃいます。そういうことを含めて考えると、少し有料化を検討してはどうかと思います。すごい解説に感動したという人が本当にあれで無料なのかという話を何人も聞いたことがありますので、そこを有料化するというのもひとつの九州陶磁文化館のらしさかなと思います。

有田をご案内するときに、最初に泉山の磁石場に連れていくのか、九州陶磁文化館に連れていくのか迷います。まずは泉山を見て、九州陶磁文化館に来てもらって、有田の歴史と文化を感じていただいて、次にどこに行くかを考えてもらうというのが私なりの説明のやり方なので、九陶でもいろいろ検討していただければと思います。

また、先ほど話にありましたように QR コードというのは結構いろいろなことができますので、一般向けに活用していただきたいのですが、有田焼に非常に興味をお持ちで、自分だけの特別な解説を受けたいという方に向けて観覧料の設定もいいのかなと思いました。

（事務局）

シンガポールのどんなお客様でしたか。

（委員）

超富裕層。びっくりするくらいの富裕層です。

（事務局）

私たちは富裕層かどうかで説明をかえるわけではなく、どなたにも一生懸命案内しますが、そういう超富裕層の方々は歴史や文化に熱心な方が多い気がします。

（委員長）

はい、他にはなにかありますか？

（委員）

観光や焼き物の勉強に来られる方への解説に関してですが、私は今、まだ見習い中ですが、観光ガイドもやっていまして、そこで長く観光ガイドをされている方も、九州陶磁文化館の展示が変わるたびに必ず勉強に来られています。専門的な解説をお願いする場合は、九州陶磁文化館の学芸員にやっていただいていて素晴らしいなと思っていますが、一般的な説明は観光ガイドを活用するというのもいいかなと思います。

今、ボランティアガイドさんが 15 名ほど観光ガイドをされています。九州陶磁文化館が有田町としても有田焼としてもすごく大切な場所というのは、有田に来られる方は皆さんご存知のようなので、解説ができる人を増やすというところを、私も含めてご協力できたらなと思っています。

もう一つが、広報について、昨年度の主な意見に SNS とかチラシ、紙媒体のことがありました。私は、昨年から九州陶磁文化館で夏休みイベントをさせていただいていますが、今年度はチラシやホームページなどたくさん宣伝していただいた結果、昨年度よりも早い段階で多くの方から申込がありました。この協議会の皆さんの意見がすぐ担当の方に伝わったのがすごくありがたかったです。本当に感謝しています。ありがとうございます。

（委員長）

ありがとうございます。広報のところは本当にそうやってされたことがきっちり形になっているの

ではないかなと思います。

（委員）

　先日、遠方からお客さまがお見えになることがあって、事前に有田のスポットを調べておいてくれという依頼がありました。私はもちろん九州陶磁文化館をご案内したいと思っていたのですが、ツヴィンガー宮殿を見たいと言われて、久しぶりに伺いました。週末ということもあり、大型バスが 15 台ほど停まっていました。お土産のところはにぎわっていましたが、ツヴィンガー宮殿に行ってみたら閉館になっていて展示品を見ることができませんでした。そのときはやはり九州陶磁文化館をと考える方も多いと思います。大型バスでたくさんの観光客が有田に来られていますので、そういうところにアプローチをしていただくともっと九州陶磁文化館に来られるのではないかなと思いました。ポーセリンパークでは、団体バスの乗降場所があって、動線が作られているのでスムーズに移動されていました。今日、九州陶磁文化館にもバスが来ているかなと思っていましたが、残念ながら停まっていませんでした。九州陶磁文化館でも大型バスの乗降場所がありますよということなどをアピールすれば、ますます観光客が増えるのではないかと思いました。

（事務局）

　ポーセリンパークのお客様はどこの国からですか。

（委員）

　アジア系の大人の観光客だったと思います。話しかけはしていませんので、どちらの国から来られているかはわかりませんでした。15台ほど停まっていましたので、海外からの観光客が戻ってきているということを実感したところです。九州陶磁文化館は、降車場や駐車場の位置が案内図や看板でも分からないので、そこもPRしたらもっと使い勝手がいいのではないかなと思いました。そのうち海外の方もたくさん来られて、有料がいいという声が広まればもっと良いかと思います。

　もう一つが夏休みイベントのチラシを今年度は全戸配布していただいたようなのでよかったなと思いました。一方で、先日の今右衛門先生の弘道館2のイベントを佐賀新聞社のウェブサイトからスマホですぐ拝見しました。やはり動画を見ていたら見入ってしまったので、夏休みイベントも佐賀新聞社にぜひ来ていただいて、 動画で流して、もっとPRされたらよいと思いました。夕方のNHKニュースを見るのではなく、自分のタイミングで、ウェブで見られるのが便利です。夏休みの子供たちのイベントだったり、それだけではなくて、チラ見じゃないですけど、ちょっと館内を動画でご案内したら、やっぱり見たいなというふうになるのではないかと思います。毎年参加させていただいて、反映していただいているので来年も楽しみにしています。

（委員長）

次は動画の発信、よろしくお願いします。どんどんハードルが上がっていきますが、よろしくお願いします。

（委員）

私は民間の学童保育の学童指導員をしています。昨年、こちらの会議に参加させていただき、何か貢献をしたいと思いまして、子供たちを連れていって、館内で色々お絵描きとかしてもいいですかという質問をさせていただきました。早速、3月に入学式前の春休みにお子さん十数名で九州陶磁文化館を見学に来させていただきました。非常に好評で、特にタッチパネルで自分の好きな文様で有田焼を作れるというところが人気でした。自分で触ってそれを友達に自慢できるし、それが大きな画面に出てくるという流れが、本当に子供たち目をキラキラさせて楽しんでいましたので、連れて行った私も非常に嬉しかったです。

また、第一展示室の暮らしを彩るというところで、当時の食事の絵と食器が展示されていたのですが、子供たちは、自分のお家とは違うというのが非常によく分かったみたいで、数年前に来させていただいた時よりも、より身近に自分の生活と対比させて見ることができて子供たちは本当に喜んでいました。

そして最近、夕方のテレビでも九州陶磁文化館の夏休みイベントの放映があり、それを「見たよ、見たよ」と子供たちも言っていました。地元有田町のお子さんですが、九州陶磁文化館を非常に身近な存在としていますで、ぜひ教育活動に皆様の英知がつながっていければいいなと、そのお役に立てればいいなと思っているところです。

そして、イベントの様子の動画を撮ってほしいというお話がありましたが是非うちの学童保育もご協力できますので、子供たちが見ているところの動画を撮りたいということでしたらお声かけください。

（委員長）

キャスティングは決まりましたね。あとは作るのみですね。

（館長）

最近は肖像権とか個人情報保護の観点で簡単に SNS などで発信できませんが、OK とっていただいたから、せざるを得ないですね。

（委員長）

そこまで盛り上がったら、ぜったいですね。

（委員）

昨年度も九州陶磁文化館から学校にお話に来ていただきましたが、今年度も授業の内容などで焼き物や伝統などについては学ぶのですが、やはり本物を見る機会が結構少なくなってきていると思いますので、学校の授業や学年の行事で関われるところから関わっていろいろ伝えていきたいなと思います。大学が佐賀大学で焼き物が専攻ではなかったのですが、授業で有田キャンパスにはよく来ていて、留学生の方とかもいらっしゃっていましたが、やはり SNS でフェイスブックとかインスタグラムから友達に情報発信して、こちらの方に来ているという人も結構いましたで、やはり若い海外の人とかは、結構 SNS を見て、情報仕入れているのだなと思います。

（委員長）

ありがとうございます。 他には。

（委員）

収蔵品がすごく多くなってきて、その収蔵する倉庫が狭いという話を度々聞きますが、何か具体的な計画はあるのでしょうか。

（事務局）

九州陶磁文化館だけの問題ではなく、県内のどの博物館も収蔵庫はもう満杯状態で、寄贈の話があっても申し訳なくお断りする場合があります。それで収蔵庫を拡張したい、まずその前に展示室を拡張したいという希望もありますが、内部的には収蔵庫が喫緊の課題です。しかし、九州陶磁文化館だけで済む話ではなく、博物館はもっと古く狭い。名護屋城博物館も狭い。展示室がオープンしたら、見に行こうということになりますが、収蔵庫は、それを作ったからといって直接県民が喜ぶという世界でもありません。さらに予算は限られています。県の財政の中で施設整備の優先順位はやっぱり厳然としてあるわけです。この協議会でも頻繁に意見として出していただいています。しかし、そんなに簡単にはいかないのは重々承知していますけど、現在、収蔵庫問題をどんなふうに所管課としてお考えなのか聞かせてください。

（県）

まさに財政の大きな問題として、ハード整備は、かなり事業費が大きいので、非常に頭を悩ましている問題です。博物館の収蔵庫だけではなくて、県全体でいろいろな建物の整備の懸案があって、どういう優先順位でやっていくかということは常に考えていますし、まさに収蔵庫も考えていかなくてはいけない問題です。

（事務局）

基本的に解決してくための方針はなにかありますか。

（委員）

　個別のアセット計画はどうなっているのですか

（県）

　それは資産活用課で県全体のハード整備の計画を考えています。ただ、その中で多分まだ決まっていないところもたくさんあると思います。

（事務局）

　そのアセット計画とはどういうものですか。

（委員）

　県も市町も公共施設は古くなってもそれを維持していかなければなりません。老朽化したものを壊すが一つ、あとは手を加えて長寿命化していく。例えば、耐震構造を整えて長寿命化していこうとするものや、集約型、例えば図書館と博物館をひとつの施設にして、そこで予算を持ってくるというようなやり方もあっています。それをどうやっていくのか、例えば、九州陶磁文化館を今後どうやっていくのか、県立図書館をどうしていくのか、県の体育館はどうしていくのか。一つ一つの個別化計画をしっかり立てなければならないはずです。その見通しが、館長にも委員さんにも知らされるということは当然だと思います。これがどうなっているのかは、早急に戻って調べたいと思います。

（事務局）

　収蔵庫の拡張については、協議会委員の皆様が毎回心配してくださっています。

（委員）

　この前、神埼の資料施設みたいなところが老朽化していて収蔵もできないという話があったので、どこもそういう状況なのだなと思いました。九州陶磁文化館でもそういう状況だというのは由々しきことだと思っています。それは後回しにできるような問題ではないと思います。今は観光と文化を一緒に考えていくということもありますから、文化だけの問題としてではなく考えていく必要があります。大切な施設であるということをより感じさせていただいています。

（委員長）

　収蔵庫の問題は、当然、寄贈が増えていくと満杯になるわけです。満杯になって寄贈を断らなければいけないというのはすごく問題だと思います。これはもう本当に真剣に協議しなければいけないことだと思いますし、いろいろ順番にあるということもあるでしょうけれども、佐賀県全体の博物館、美術館の共同の収蔵庫を作るというような感じもありかなと思っています。

（事務局）

個々に作っていたら予算がいくらあっても足りないので「収蔵庫センター」みたいな考え方もあると思います。ただし、取りに行ったり運ぶのは面倒くさいということはありますけど、それはやむを得ないかもしれないです。

（委員）

実物をやはり持っておくということが困難なところになってきていて、収蔵品をアーカイブするというか、映像に残そうという形になっていっているのかなということを感じています。それはそれで大事なことかもしれないですが、やはり実物を県民の方に見ていただきたいというのは学習の機会を創出しているわけで、それはとても大事なことだと思います。

（委員）

寄贈の話で言いますと、有田町にも山のように相談がきます。私のところに届くのは一握りですが、それでもすごい量で、本当に断っています。県の収蔵庫の問題に市町としても乗っかりたいなと思ったところです。いろいろ複雑なこともありますが、個人的にはとりあえず寄贈を受けたらいいと思いますが、収蔵庫がないので受けられません。まったく土地がないわけではないですが、予算がないというところは県と同じです。しかし、よく思うのですが、400年の文化と歴史は作ることができません。先人たちが頑張った思いを譲り受けて、我々が享受しているので、これを次につなぐのは我々の仕事だと思っていますので財源はないと言いつつも何か知恵を絞れないかなと有田町としても悩んでいますので、一緒に頑張ろうと思います。

（事務局）

九州陶磁文化館は有田だけの美術館ではないので、武雄や伊万里、嬉野などもカバーします。窯業の歴史を抱えているところは、みんな平等にサポートします。有田がどうしても優先になりますが、伊万里、武雄、嬉野、それから肥前窯業圏の日本遺産に認定されている地区は三川内、波佐見周辺もあります。九州陶磁文化館の名前の通り九州全体のことも皆さんに、その素晴らしさを伝えることは九州陶磁文化館の役目です。

（委員長）

議題２のその他となっていますが、事務局で何か予定がありますでしょうか？

（事務局）

その他の議題としては特に用意しておりませんが、9月からから開催します特別企画展 瀬川竹

生コレクション江戸大皿百物語についてご案内させていただきます。

収蔵庫問題が議論になりましたが、大皿100枚寄贈を受けました。これは非常に貴重なコレクターの思いの入った有田の江戸後期幕末を中心としたコレクションです。古い初期伊万里とか柿右衛門などはこの地で生まれた注目と評価の高い工芸品ですが、その時代からすると幕末期であることで、あまり顧みられなかった分野だったのですが、横浜在住の瀬川竹生さんが生涯かけて集めたコレクションで非常に見事なものです。大型であるというだけでなくて、そこに描かれた画力、それから文様の意味、そういったいろんな多角的な面から、大皿の価格、それから裏文様、銘の組み合わせ、そういったことを非常に深まった論考を掲載している図録も刊行予定です。展示会は無料ですので、ぜひ多くの方に見ていただきたいと思っています。

また、現在、夏休みということでエントランスホールにおいて、子供向けのイベントを行っています。こちらの方も明日 STS の生中継で、石本愛さんがおいでになりまして5時20分前後から放送されますので、ぜひご覧ください。また、第5展示室では、第45回九州新工芸展も開催していますので、ぜひご覧ください。

（委員長）

　ありがとうございます。それではこれで提案されている議題については審議を終了いたします。本日の皆さんからいただいたご意見を今後の運営等に活かされることを期待しております。ご協力ありがとうございました。

（事務局）

　以上を持ちまして、令和6年度佐賀県立九州陶磁文化館協議会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。